

## 入庁してから今までを振り返って

福岡支部 福岡県土整備事務所 勢村元章

### ○はじめに

私が県に入庁し、福岡県土整備事務所に配属されて、早3年が経とうとしています。先輩方によると、通常であれば次は係異動だそうです。だから、良い機会だと思い、これまでの3年間のこの会報に記録しておこうと思います。

### ○入庁して1年目

まず、私が県に入庁した後、休む暇もなく研修期間に突入しました。研修では、実務系が多く、覚えるべき知識の多さに少し面食らったことを憶えています。ただその研修で習うことは、今後の業務においての重要なポイントだと思い、真面目に取り組みました。

その研修期間が一段落つくと、自身の係が河川改修係だったこともあり、出水期明けの工事に向けて、設計書の作成に取り掛かりました。まったくもって初心者な私は、先輩職員から助言を頂きながら結構長い時間をかけて初めての設計書を作成しました。そんな私の作成時間の数倍も速いスピード(その上精度も高い)で、設計書を作り上げる先輩方を見て、自分自身を鼓舞しました。

次に平成30年7月豪雨で被災した現場の災害復旧事業の手伝いをしました。内容はほぼ補助的な業務だったのですが、実際に間近で被災現場を見ることで被災メカニズムを具体的に学ぶことができ、とても良い経験となりました。

その後、初めて作成した設計書の発注手続き、契約が終わりました。普通ならば、この後すぐに工事となるところですが、実際は、少し待ちが発生しました。理由は、現場が埋蔵文化財の指定地(遺跡)だったために、着工前に試掘の調査をする必要があったからです。予期せぬ工事の待ちに、少し慌ててしまいました。思えば最初の研修で現場条件をよく調べて(予期して)から発注等の計画を立てる必要があると教えられていました。ここにきてだんだんと、研修で習ったことの重要性が分かってきました。

また、この工事(護岸工事)は少し特殊で、湾曲した川にショートカットする形で分水路を作るといったものでした(下流側に固定堰があり本川を拡幅しようとする、併せて堰の改修も行う必要があるため)。短い区間とはいえ何も無いところに川を作ること、独特の工事(緊張感も)を味わうことができました。施工上、特に難しかったのは、本川と分水路の接続部分です。本工事は曲線(R)が、極端に言うとはほぼ折れ曲がっているもので、通常の間知ブロックを使用するのではなく、自然石を削りながら積んでいきました。業者によると、職人じゃないとこんな上手くは積めないとのことでした(現地はとてもきれいに仕上がっています)。

年末には、河川系の新採土木職員の通過儀式(?)である草刈工事も発注しました。改修工

事に比べて、現場の位置がバラバラかつ道が入り組んだところにあるため、現場を覚えることに苦戦しました。私の隣の係は、そのような工事を主に扱う係（河川維持係）なので単純に記憶力がすごいと尊敬していました。（今も尊敬しています）

このように、1年目でいろいろな経験を積むことができました。また、2年目に向け、1年目の反省点であったスケジュール管理を徹底することを心に決め、新採1年目が終わりました。

## ○2年目

2年目、1年目4人だった係員の数が3人に減りました。なので、昨年度以上に忙しくなることを覚悟し、2年目に臨みました。そういったこともあり、1年目と比べて研修期間がないことを、2年目の目標であるスケジュール管理を行うチャンスだと思い、その徹底を図りました。

その結果、早い段階で設計書を作ることができ、工事も昨年度に比べ、1カ月ほど早く着手することができました。

この工事は1年目で例に挙げた工事の継続工事(本川上流側)なのですが、地域にホタルが生息していることもあり、その幼虫の主食であるカワニナが生息できる環境を創るため、植生ブロック（ポット型になっており土を中詰め出来るもの）を使用して工事を行いました。

また、河道の掘削工事も発注しました。この工事は、環境に配慮した掘削工事で、内容としては、ミオ筋を意識した掘削、またワンド(魚類などの安定した棲み処)を人工的に作成するなど水生生物の生息しやすい環境を創る工事でした。付近には種の保存法に指定された生物が生息しており、その生物たちにとっても有益な工事でした。

この2つの工事を通して、環境を保全する工事は、河川法の観点からも積極的に行っていくべきだと感じました。

1年目と比べて任される河川の数も増えましたが、基本的には護岸工事がメインだったため、今までの経験を生かして業務を遂行していきました。

次に、その工事の中で1つだけ事業が最終年度のものがありました。そのため事業の締めくくりの業務である事後調査を委託し、業務に取り掛かりました。まずは、事後調査を行う軒数を確定する必要があるため、申出書という形で地元区長に配布をお願いし、その結果を待っていました。しかし、家によっては事前調査時点での持ち主から所有者が移転している場合や連絡のつかない家があったため、市役所に登記簿を取りに行ったり、定期的に家を訪問したりして、結構な時間をかけ事後調査の軒数を確定しました。その後は、特に大きな問題もなく、事後調査が終わり、無事その事業を終えることができました。いままで先輩方がやってきた工事の最後ということで、最後の最後でへまをしないように、適度な緊張感を維持しつつ業務に取り組みました。

最後に、いままで広域連携事業で行っていた予算を打切られるという一河川の危機がやってきました。当時は交渉段階だったため、その予算の必要性を国に証明するために、付近

の大きな公園と連携した B/C の算出を行う委託業務を発注したり、地域の祭事や観光名所等をまとめたり色々工夫しました。しかし、その苦労も報われず、結果的に、予算は打ち切られてしまいました。ただ、事業の本質的な意味をこの業務を通して学べたことは、とても大きかったと思います。

2年目としては、いろいろ学べた年でした。それも係長が私に経験を積ませるためにしてくれたことだと思うので、この経験を、今後の業務に発揮していこうと思いを新たに、2年目を終わりました。

### ○3年目

3年目は、2年一緒だった係長や一人の先輩が異動(事務所及び係)をしてしまいましたが、本庁から新しい係長や新しい先輩が来てくださいました。その方々はとても優しい方々なのでまとも甘えてしまいそうになりますが、過去の教訓を胸に3年目は、1年目、2年目以上に頑張ろうと決意しました。

まず最初に取り掛かった業務は、測量の業務委託でした。初めて行う業務の為、設計段階では業務内容がいまいちピンとこず苦戦しました。しかし、測量業務は今後の工事の基礎となる重要な業務なので、絶対に間違えるわけにはいけないと思い、先輩方に沢山質問したり、過去の事績を参考にするなどして、設計書を作成しました。その後のコンサルとのやり取りでは、先輩と一緒にしてもらい、一つ一つ正確に理解していくことに努めました。その甲斐もあり、当初の目的通りの成果品が上がってきたため、大きな達成感が得られました。

この年は測量以外にも、実際に災害復旧の申請を一から全部やったり、堰の取付擁壁の工事などの規模の大きな工事を発注したりと、初めてだらけの1年間でした。

その上、今年は前年に比べて業務量が増えたこともあり、いかに効率よく仕事を行えるかというところに視点を置いて、1年間過ごしてきました。そのため、当たり前かもしれませんが、委託にせよ工事にせよ、出来るだけ早い段階で、発注者と請負業者、及び関係機関が同じ方向を向いているかということが一番重要であるということに気づかされました(手戻り等を起こさないため)。また、初めて行う業務が多かったためか、色々先輩方に頼る場面が多かったと思います。当然質問する前には調べますが、時間がかかるため、(時間をかけても)分からないものは潔く質問をするようにしました。自分の限界を理解するのも、業務の効率化を図る上で大切だと感じました。

### ○まとめ

この3年間で学んだことは、今後の土木公務員人生の確かな礎になったと感じています。今後も奢ることなく、今まで以上に努力を重ね、業務に取り組んでいきたいと思っています。